

2025 年度（令和 7 年度）学校評価自己評価表

福山市立中央中学校区	校番 4 9	福山市立桜丘小学校
最終更新日		2025 年（令和 7 年）4 月 1 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビ ジ ョ ン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理” めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	【学びに向かう力】	【課題発見・解決力】	【自己肯定感】
・コロナ禍の中、各学校感染拡大防止策を考え工夫されて学習、行事に取り組まれている。各小学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き、子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できると肯定的評価をいただいており、引き続き努力してほしい。	○各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。 ○小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。 ●子どもたちが他者と協働して問題解決する力を付けていく必要がある ●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。	中学校区として統一した取組等	【学びに向かう力】 ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している	【課題発見・解決力】 1 校区合同で実施する授業研究 2 生徒会、児童会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施 3 校区校長会・校区教頭会・校区各主任会等を通しての連携	【自己肯定感】

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力		【学びに向かう力】	【課題発見・解決力】	【自己肯定感】
自ら未来を切り拓き、たくましく生きる力をもった児童の育成		めざす 子ども像	低	A 目標を決め、自分のがんばりを振り返りながらねばり強く取り組む。 B 自分の疑問・関心から課題を見つけ、友達と協働しながら工夫して解決に取り組む。 C 自分と友達の良さや頑張りを知り、良さを伸ばそうとする。		
学校教育目標			高	A 目標達成に向けて具体的に・継続的に取り組み、次の目標につなげる。 B 自ら「問い」を見つけ、工夫して課題解決に取り組む、新しい学びにつなげる。 C 自他の良さや頑張りにより学び、自己の向上をめざして前向きに努力する。		
みんなで 学びをつくる 心をそだてる 体をきたえる						
現 状						
<div>＜児童生徒＞ ○友達と対話しながら考えを深めたいと感じる児童が増えている。 ●学習をやり切ることができない児童もあり、基礎学力の定着に課題がある学年もある。 ●与えられた課題に取り組むことはできるが、自分から課題を見つけたり工夫して解決したりすることには課題がある。 ●自分の考えや思いを相手に分かりやすく表現することに課題がある。 ●自己肯定感や自己有用感が低い傾向にある。</div> <div>＜授業＞ ○基本的な問題解決型の授業は定着している。 ○児童は対話活動を通して学びを深めることを意識している。 ●児童自ら課題発見し、協働の学びによって解決する学びづくりの研究を継続する必要がある。</div>		研究	テーマ	伝え合い、学び合う児童の育成 ～対話型授業を通して深い学びを獲得する～		
			内容等	一人一人が自分の考えをもち、対話を通して学びを深める		
		めざす授業の姿		効果的な対話場面の設定によって、児童が課題を見つけ、「教科の見方・考え方」を働かせながら、自ら学びを深めようとしていくことができる授業		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立

桜丘小

学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力セシ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セシ 評価	達成 評価	総合 評価
3	主体的に学ぶ 児童を育成す る。	★	継 続	自分の考えをもとに 対話を通して考えを 深める学び方の定着 を図る。	・対話による学びの深 まりをねらい、根拠 を明確にした表現力 を育成する。 ・授業の中で、児童の主 体的な対話場面を設 定し、学びを深める。	・児童の考えを深める授 業にするために、協働 的な対話を通して、表 現できる児童を80% 以上にする。 (児童アンケート) ・対話を通して、根拠を 明確にして表現できる 児童を80%以上にす る。(発言・説明等)								
2	互いの良さか ら学び合い、自 己の成長につ なげる児童を 育成する。		継 続	互いの良さを見つけ 自分の良さを再発見 したり自分に活かそ うとしたりする児童 を育成する。	・自他共に互いの良さ を見つけ合い、掲示物 「ありがとうの木」を もとに感謝の気持ち を伝え合う。 ・自分のがんばりや成長 をふりかえりカード に書き、可視化する。	・友達に感謝の気持ちを 表すために、感謝のメ ッセージを書き、その 内容を活動月ごとに掲 示する。(成果物) ・学期始めに個々に設定 するめあてを毎月振 り、成長したと感じる 児童を80%以上にす る。(児童アンケート)								
2	自己の課題を 知り、改善に向 けて主体的に 取り組む児童 を育成する。		継 続	自分の体力課題を発 見し、解決に向けて 積極的に取り組む児 童を育成する。	・自分の課題を設定し、 運動内容を選び、主体 的に取り組めるよう にする。 ・運動委員会の主体的な 活動として、体育朝会 や運動遊びを行う。	・授業初めに、自分達で 内容を選んだり決めたり したサーキット運動 を行う児童を88%以 上にする。(職員アンケ ート) ・運動することを楽しむ 児童を93%以上にす る。(職員アンケート)								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。